

聞き書き
船原英照さん

シーカヤックで上天草の無人島を巡る旅は 日々の疲れを解放する至福の「天草時間」



広大な天草には異なる顔をもつさまざまなフィールドがあります。その一つが有明海の穏やかな海。小島が点在する天草松島は、シーカヤックで巡ってこそわかる魅力があります。波のない海にぼっかり浮かぶ貝殻でできた島、カヌーから見上げるそそり立つ岩。ダイナミックで優しい至福の「天草時間」ともいえる、そんな旅を船原さんは演出し、ガイドしています。移住という形で辿り着いた上天草の海を船原さんは温かな眼差しで見つめます。

ふなはら・えいしょう／シーカヤックのツアー会社「unplugged」オーナー。1967年熊本市生まれ。カヌーでの川下りを趣味としていたが、激流で腕を痛めたのを機にシーカヤックに転向。2003年に会社を立ち上げ、牛深（うしぶか）でシーカヤックとシュノーケリングを併せたツアーを始める。2012年、上天草市に移住し、前島を拠点に天草松島の島々を巡るツアーを開始。天草の魅力を詰め込んだツアーは人気で、遊びを通じた自然からの学びを人々にもたらしている。

自転車旅で天草の海の透明度に 魅せられる

天草との出会いは中学2年のときです。今から40年ぐらい前ですね。

その頃、大学生の間で自転車旅をするのが流行ってたんですね。自転車で北海道を旅するのを雑誌で見たりして、大学生にできるんだったら中学2年でもできるんじゃないかと思って友だち3人で自転車旅を計画したんです。

で、どこ行こうってときに「天草いいんじゃないの?」というようなことになったんです。御船町の友だちの家から出発して1週間ずつとキャンプしながら回りましたね。

天草って海水浴とか小さい頃からよく大人に連れていってもらってたんですが、車だと

ビュッと行ってしまう。でも、自転車って時速10キロとか20キロぐらいだから、今まで見慣れていた風景が全然違うものに見えて。通りの家の裏の庭が超素敵だなとか、風景すべてに感動が詰まって、いちいち止まっては「あれすげえ、これすげえ」って言いながら回っていました。

天草の西海岸に東シナ海が広がるすごいきれいな場所があるというので、そこに行ったら、もう海がとにかく澄んでいて。特に日本初の海中公園になった牛深は見えたことないような透明度の高さで、ちょっと泳いでみたら熱帯魚とかもいて「こんなところが天草にあるのか」って。天草のイメージが覆ったというか。キャンプも楽しくて、天草の魅力がもうめっちゃめちゃそこで自分の中に入っちゃってね。「大人になったらこういうとこに住めた

ら幸せだよな」って思っていました。

でも、大人になるとそういうのって少しづつ忘れちゃうじゃないですか。学校出て、就職をして最初熊本市内の印刷会社で営業マンとして入って。結構優秀だったんです。27歳ぐらいまでいたのかな。

あるとき、営業で毎日行っていた大きな会社の企画部の人が「俺カヌーが趣味なんだよ。お前も遊びにいく?」って誘ってくれたんです。カヌーに全然興味もなかったんですけど、「行ったらもっと仕事ももらいやすくなるかな」という厭らしい気持ちで行ったんですよ。

最初は緑川だったと思うんですけど、次のお盆休みかなにかには「四万十川でキャンプしながら川を旅する」と言われて、「そういや、俺もそんなことを中学生の頃やったな」と思いついて、ついていったんですよ。

そうしたら四万十川の自然の中でカヌーで遊ぶ素晴らしさ、心を解き放ってくれる瞬間に出会ってしまった。上流から下流の海沿いのほうまで2泊3日ぐらいで下って、すぐに自分のカヌーを買いにきました。それから誘ってくれた人はそっちのけで、競技のカヌーとかにもハマったりし、週末になればカヌー。

金曜日の営業に出かけるじゃないですか。営業車の上にもカヌーが乗ってるんですよ（笑）。それで営業に回って仕事が終わるとそのまま球磨川行って、月曜日の朝まで川にいて、早朝4時、5時に起きて家に帰ってシャワー浴びて、スーツに着替えて出社してまし

前島橋の下を通過して無人島を巡る。



たね。それを毎週毎週繰り返していたんですね。もうそれを楽しむために仕事頑張るみたいになってたんですけど、35歳のときに「いや、これを楽しむために仕事頑張るんじゃないくて、これで生きていったほうが幸せが倍増するな」と思って、生き方変えるなら今しかない、会社をぱっと辞めたんです。

それからフィールド調査したり、ガイド講習を受けたりとかを1年ぐらいやって、2003年の8月に「unplugged」を創立しました。陸地からではアクセスできない秘密のポイントにシーカヤックで行ってシュノーケリングするというツアーを牛深で始めたんです。

たとえば沖縄であれば、遠浅のどこまでも



夕暮れの静かな海を漕ぐ至福の時。



カヤックの基地は観光拠点施設の一角にある。



国立公園内でシーカヤックの無人島ツアーができるという贅沢。
写真提供／unplugged

するわけですよ。やっぱり遠い、ならば移り住もうと思ったんですね。

そう思って、天草中でもう1回フィールドチェックをやったときに、上天草市の市長から電話があつて、「ここにオシャレな観光施設を作るから、施設の目玉としてここでカヤックやつてくれないか」みたいな話があつたんです。まだここがマリーナで、隣が空き地でなにもなかったときです。

最初はお断りしましたけどね。有明海は透明度がないからシュノーケリングもできない。けれども、「もう一度フィールド調査をやつてもらえないか。市ができる限りのバックアップはさせてもらうから」という話をいただいて、市長とバーベキューを一緒にしたりして意気投合し、この人のためになにかできることがあればとフィールド調査から入ったんです。

歩いて出ていけるようなきれいなリーフがあるけれど、逆にいえばダイナミックさがない。天草は隆起してできた地形なので、海の中もダイナミックなんです。大きな柱のような岩が海の中に聳（も）えている岩の迷路のような中をシュノーケリングしたりできるのが、天草西海岸ならではの魅力なんです。牛深で出会った人たちがフォローしてくれて、牛深のフィールドと施設を利用していただくような形でツアーを10年やりましたね。

熊本から天草に移住する

上天草に移住したきっかけは、生活拠点の熊本市内から牛深まで3時間かかることです。仕事があるたびに毎日往復6時間は運転

アーで、1からチャレンジしてみよう」と思つて、上天草に移り住むことにしたんです。シェルアイランドがなかったらやつてなかったかもしれないですね。

それからじつくり、ここをもうほんと回りまくりましたね。季節ごとの潮の時間を調べたり、危険な箇所を地図上にチェックしたり、安全確保のためにみっちりくまなく調べに調べて、1年以上かけたんじゃないですかね。

松島をフィールドにして本格的にやりだして11年目です。2年間は牛深とことどころでもやれるような体制を作りながらやつてました。

天草の海に大の字に浮かんで過ごす時間

松島つて、島と島の狭くなっているところに隆起した絶壁が両側にそびえて、カヤックでそこを抜けていく瞬間はまさに『リアル』デイズニーシード」つてみなさんおっしゃるんですよ。

一般的にシーカヤックのフィールドつて1時間漕いでも風景が一切変わらないような海ばっかりなんです。目の前が水平線という海を1時間漕いでも水平線しかない。でもここは5分、10分漕ぐだけで風景が変わるんですよ。

島々を抜けていくと島の向こうにまた違う島があつたり、有明海のだ真ん中に浮かぶ湯島や島原半島の全景がバーンと見えたり、と



ツアーで上陸するシェルアイランドは天草の楽園。写真提供／unplugged

多いほどゴミの数は多い。

でも、今年はゴミがめっちゃめっちゃ少なかったんですよ。雨がとにかく少なかったっていうのが原因です。台風も少なかったから水温も上がり続けるし、海の透明度もすごく悪くなりましたね。

この循環つて結局しつぱ返しが来る。自然はバランスとるんで大雨に繋がっちゃう。ゴミ予備軍がくすぶっている状態なので、今度の大雨が降ったらとんでもない量のゴミが来ることも目に見えていて、ちょっと怖いですね。

気候変動と言われてもピンとこない人のほうが圧倒的に多いです。自然の中で遊ぶことによつて得られるもののもつてもすごく多いと思うので、たくさんの人に自然の中で遊んで感じてほしいですね。



小島が点在する水辺は波も穏やかで湖のようだ。

今、SDGsもやっぱり広がっていかないといけないと思つていて、そういったことの気付きを与えられる仕事だと思つています。それも堅苦しくではなくて、「ゴミ拾いってめっちゃ楽しい」みたいな。

ツアーでは毎回、無理しない範囲で必ずゴミを持つて帰ってきます。海に漂っているビニール袋だったり、ペットボトルだったりをみんなで拾う。

ゴミは都会のゴミですね。海にわざわざ捨てにくる人なんかいないわけですから。有明海は熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県のゴミがほとんどで、雨が降ると都会から側溝を通じて川に入つてゴミが全部海に流れてくるっていうサイクルなので、都会に人が多ければ

天草松島と天草五橋

上天草市の大矢野島と天草上島（かみしま）の間にある大小20ほどの島々は天草松島と呼ばれ、宮城県の高松島、長崎県の九十九島（くじゅうくしま）と並び日本三世代松島の一つ。雲仙天草国立公園内に位置する、島々により水路が狭まるため、干満差日本一の有明海の中でも特に上下差が大きく、大潮時にはその差は6メートルにも及ぶ。天草五橋は、宇土（うつ）半島の三角から大矢野島、永浦島、大池島、池島、unpluggedのある前島、天草上島を結ぶ5つの橋で1966年に開通。当時の日本の橋梁技術を結集し、完成までに4年2ヶ月を費やした。天草の島々を巡る五橋の開通は大きな話題となり観光客が激増。天草の交通、産業、生活は一変した。五橋はトラス橋、PCラーメン橋、バイブアーチ橋などそれぞれ構造が異なり、自然と人工物が一体となった風景となっている。シーカヤックからはそうした橋梁美や構造の迫力を間近に見ることもできる。橋から眺める夕日は『日本の夕陽百選』にも選ばれている。